

○第3次健康びぜん21・備前市食育推進計画・備前市第2次自殺対策計画に対する
意見募集の結果の公表について

市民の皆様からご意見を募集した第3次健康びぜん21・備前市食育推進計画・備前市第2次自殺対策計画について、ご意見の要旨と健康づくり推進協議会の考え方は下記のとおりです。

意見募集期間 令和7年1月8日（水）～令和7年2月7日（金）

意見募集結果 5件

	【意見の要旨】	回答
1	計画が市民全体に行き渡るような広報活動が出来ているかは疑問です。	計画の周知につきましては、市ホームページや広報紙、SNSへの掲載、さまざまな組織や団体への啓発活動などあらゆる機会を捉え、実施してまいります。
2	備前にも健康施設（入浴施設、事務、スタジオや個人で施術を受ける場所、栄養相談、歯科相談ができる複合的な場所）を立ち上げてみるのはどうでしょうか。	市内には多くの健康増進施設があり、健康づくりに取り組めるよう連携してまいります。
3	子どもの居場所や紅茶カフェなどの居場所活動について、一般の方に周知していく方法を工夫していく必要があると思います。 食育の面では、国が進める「オーガニックビレッジ」に申請するなど、農業委員会にもプラスになる活動を取り組んで欲しいと思いました。 ゲートキーパー養成講座についても、自殺対策計画の主旨が伝わり、目標値が改善されるような取り組み方が講座の開催以外にもあるのではないかと思います。 市民の健康のためには、行政も部門を越えて、市民の取り組みとも協力しながら、進めていく必要があると思います。既存の組織・団体だけでなく、備前市の総合計画とも連動させてください。	居場所活動や食育活動については、行政だけでなく地域や既存団体等とも活発に取り組んでいただいています。より多くの市民に周知されるよう、庁内でも連携を図り、他団体とも協力してまいります。 自殺対策については地域全体で取組を進めていくことが必要であるため、ゲートキーパー養成講座の実施に加えて様々な機会を活用し、相談窓口の周知やこころの健康づくりなど、自殺予防に関する正しい知識の普及に努めてまいります。
4	(2) 地産地消の実践、の項に関しまして、近年の野菜の高騰により地場産物を家庭で使用する事が困難になっている、と記述がありましたが、実際に根拠となる統計があるのでしょうか。 地産地消を推進するためには、まずは地場産物を作っている地域の生産者さんを支	ご指摘の表現については、誤解を避けるため修正します。 保健課では、里海里山ブランド推進協議会等を含む各食農団体や市農政水産課と協力事業を始めております。引き続き庁内連携しながら、市の課題解決に取り組んでまいります。

	えていくこと、販路の充実や事業補助など、消費者の購入が促進されるような施策が必要になると思います。 保健課だけがどう対策するかではなく、市役所の各課が連携して取り組むべきものだと思います。	
5	計画に位置付けに「備前市健康づくり推進条例」があるので加えてはどうですか。 また、グラフの年次がグラフごとに違っているのはどうしてですか。	計画の位置づけに「備前市健康づくり推進条例」を追加していきます。 グラフの年次については、2次計画から継続したデータとしてグラフを作成しているため、始期の年度の違いはあります。現時点で出典先の最新のデータがわかるところまでを記載しているため、グラフによって記載できている年度の違いがあります。